

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月20日

学) はなその学園 はなその幼稚園

1. 本園の教育目標

- 一、物事をよく考え、創造力のある子どもに
- 一、感情豊かなのびのびとした子どもの
- 一、根気強く、何事もやり遂げる子どもに
- 一、親切でうるおいのある子どもに
- 一、だれとでも仲よく遊べる子どもに

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1 挨拶をきちんとする
- 2 名前を呼ばれたら返事をする
- 3 「ありがとう」が言える

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	挨拶をきちんとする	B B B B C A A B B	<p>○バスから降りた時や門から登園するときに、子ども一人一人に挨拶をし、習慣づけている。</p> <p>○あいさつをされたらすぐに返すことはできるが、自分から挨拶することはできない子が多い。</p> <p>○自発的に挨拶をする子が増えたが、いつまでも習慣が身につかない子がいた。</p> <p>○挨拶の重要性を伝え、保育者からたくさんのあいさつを行った。</p> <p>○保育者が挨拶をすると返してくれる姿があったが、自ら進んでいえる子は少ない。</p> <p>○進んで挨拶をする子が多く、その友達の姿を見て挨拶ができるようになっていた。</p> <p>○自分から挨拶をするように指導してきた。ケラスの半分以上が言えるようになった。</p> <p>○保育者から挨拶をすることで、少しずつ習慣となり、こども同士でも挨拶する姿が見られる。</p> <p>○保育者の真似をして毎日挨拶をするようになり、自ら挨拶をする子が増えた。</p>
2	名前を呼ばれたら返事をする	A A B A A	<p>○名前を呼ぶときに、返事ができるよう声をかけ気づけるようにしている。</p> <p>○名前を呼んで配布物を配ることで返事ができるようになった。</p> <p>○様々な場面で声をかける機会を増やし、とっさに返事ができるように指導し、十分な成果があった。</p> <p>○名前を呼ばれたら返事をする指導を徹底的に指導した。</p> <p>○出欠確認の際には全員返事が出来る。いらいに呼ばれると返事が出ないことがある。</p> <p>○1学期から手を挙げて返事ができるように指導した。</p> <p>○名前を呼んだ際、大きな声で返事ができるようになった。</p> <p>○出欠確認や配布ものをわたす時にきちんと返事ができる。</p> <p>○出席確認だけでなく配布物を渡す際にも大きな声で返事をするように指導した。その成果が出ている。</p>
3	「ありがとう」が言える	A A	<p>○まだ全員が「ありがとう」と出てこない。友達同士でも言い合えるように声をかけたい。</p> <p>○保育者からも「ありがとう」を伝え、子ども同士の掛け合いの中にも自然</p>

		A	とできるように援助している。 ○優しく対応されたり、落とし物や忘れ物を届けてもらったときに感謝を伝えられるように習慣づけることができた。
		B	○保育者に対しても友達に対しても、心から「ありがとう」が自然に出てくる環境が出来上がっていた。
		B	○場面場面でその都度指導。年中組、年長組になると言える子が多い。
		A	○なにかもらったり、してもらった時に声をかけて促し、進んでいえるようになった。
		A	○手紙、配布物など渡すときに目を合わせて「ありがとう」が言えるようになった。
		A	○基本的には言えるが、もう少し意識させる必要がある。
		B	○友達のやさしさに気づき素直に感謝の気持ちが言葉になり、してもらったことに対して言えるようになった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	1 挨拶をされたら返すことは習慣になってきているが、自ら進んで挨拶ができるように引き続き指導が必要。 2 配布物を渡すときに返事をするように指導し、その成果が出ている。 3 「ありがとう」という言葉が日常的に 【総合的な評価】 職員が共通の認識を持ち、子どもたち一人一人に丁寧にかかわっていた結果、子ども達の自主性が伸びたと感じた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5 学校関係者評価委員会の評価

○教師が進んで行う姿を見せることにより、子ども達が取り入れて、挨拶や返事ができるようになっているのは評価できる。

○保育者は一人一人と元気に挨拶を交わしたり、園児が友達や様々な人に挨拶をしている姿を認める。

○登園、降園時に親と子にきちんと挨拶をし、コミュニケーションを図るとともに幼児のあいさつを誉め、家庭でも挨拶をするように親に協力をしてもらう。

6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	挨拶をきちんとする	挨拶されてから挨拶するのではなく、自ら挨拶できるように指導する。
2	自分の持ち物を決められた場所に片づける	自分の持ち物の場所や、しまい方を覚えるように指導をする。時間を意識して片づける。
3	体力をつける	園庭で鬼ごっこや固定遊具でたくさん遊び、運動能力向上させる

7 第三者委員会の評価

○幼稚園を訪問した際に子供から挨拶をしてくれるようになっていた。

○幼稚園でどのように過ごしているのか、親にはわかりづらい。園だよりや学級だより、写真や動画で発信し、幼稚園教育の理解を図る。

○挨拶をされてからするとはいえ、全員できるようになったのは、成果があったと考える。今後は、保育者や友達に自分から挨拶できる今後の目標に取り組む。

○自分の持ち物を決められた場所にしまうことは、ほぼ達成できているが、引き続き指導し、習慣づけることが必要である。

○子ども達が見てわかるような片づけ方などわかりやすく工夫することが大切である。

外国人教師による英語教室の評価について

1. 今年度の取り組む課題

英語正課指導導入により、英語を身近に感じ、英単語を聞き取る力を身につける。

2. 学校関係者の評価

○ 年中組、年長組の2年間で、英語に親しみ、楽しく英語を学んだことで、「キッザニア遠足」では、英語で話しかけられても臆することなく対応していた。

○正しい発音で英語を聞き分けるようになっていたと感じた。

○英語教室で歌っている歌や動作を取り入れて、楽しむことができれば英語も定着すると思う。

○英語の歌を歌って覚えることが評価できる。

○講師の先生に挨拶するときは英語でのあいさつが自然にできるようになった。

3. 総合的な評価結果

評価	理由
A	○指導中の明るい声色や、楽しい動きで子どもたちが自ら進んで関わりに行く様子が見られた。 ○講師の先生がとても明るく和やかな雰囲気を作り出していて、子どもたちが、積極的に声を出して活動に参加する姿が多く見られた。 ○指導中もいつも笑顔で接しやすく、子どもたちも英語でコミュニケーションをとるのを楽しんでいました。 ○体を動かすダンスも多く、集中力が短い子も最後まで参加することができた。 ○子どもたちが英語に興味を持てるように、ジェスチャーを交えてお話してくれるので分かりやすく、英語に親しむことができた。動き回る子がいると落ち着くのを待ってくれるが、それは担任の先生に任せて、できる子に合わせて進行しても良かったのではないかな。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

以上のことを踏まえて、英語を定着させるためには、どのような取り組みが必要か考える。

4. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	英語に親しむ	英語を大きな声で話す。 外国人講師と英語であいさつを交わす。